

9月17日 プロポーザル提案書の市民説明会での質問及び回答

	質問	事務局の回答
1	【ユニバーサルデザインについて】 ベビーカーや車椅子の方は、エレベーターで上階に登れると説明があったが、最近、千葉県でも大規模な停電が発生している。 スロープが無いように見えるが、停電時の対応を教えてください。	1階部分については、出来るだけ段差が生じないよう（フラット）な設計を考えています。2階へ上がるスロープはないため、有事の際、ベビーカーや車椅子の方が2階へ上がるには人の助けを借りて上がっていただくこととなります。 それらも含め、今回の施設では、ユニバーサルデザインはしっかり取り入れていくようにします。
2	【南海トラフ地震への対応について】 南海大地震発生時に、この地域では液状化現象が起きたと思うが、施設を建てるにあたり、地盤の対策として考えている事があれば教えてください。	プロポーザルの提案の際に、周辺の地質データ等について、分かる範囲では調査をしており、液状化の可能性はあることは把握しています。 現時点では、地盤調査（ボーリング調査）が終わっていないため、詳細の検討はできていないが、地盤調査が終われば結果を用いて液状化の想定をし、必要であれば、例えば砂杭を打つなどの対応を検討しようと考えています。
3	【部屋数について】 週2回、公民館で合唱の練習をしている。練習する場があるのはありがたいが、練習にはピアノが必要である。新施設では、同じ部屋で練習ができればいいが、部屋が空いてない場合、他の部屋で練習するには、ピアノが2台必要となってくる。 今回の整備では、3施設が1施設になり、部屋の数が減ると聞いているが、どのくらい減るのかを教えてください。	既存3施設の部屋数は、合計で26部屋あります。 現時点（基本計画の段階）では、20部屋程度を想定しています。 今回の整備は、3施設を1施設に複合化するため、部屋の数は減ってしまいますが、各部屋の機能を高め、多機能に使う（例えば、1つの部屋を区切って2部屋で使える）ようにすることで、減少する部屋についても、補っていかうと考えています。 また、ピアノの設置についても必要だと認識しています。 現時点では、どこに設置するかなどは確定していませんが、現在作成している、管理運営計画の中でしっかり考えて行きたいと思っています。
4	【楽屋について】 楽屋を会議室に使用できるとの説明であったが、何人くらいが使用できるのか。	現時点で、部屋の広さ等の詳細は確定していませんが、大楽屋で10～12人程度、中楽屋で6人程度は使用できると想定しています。 今後のワークショップ等で市民の皆さんからの意見を反映し設計をしていく中で、広さ等も変わっていく可能性はあります。
5	【練習室・リハーサル室について】 練習室・リハーサル室は、催しものがあるときのみ利用する部屋なのか。	練習室・リハーサル室は、遮音性にも配慮した部屋を考えており、例えば、ホールをイベントで使っている時に、別の催しもので練習室やリハーサル室を使用することも想定しています。 また、共に会議室などとしての利用も想定しており、一般利用はもちろん多様な使い方ができる部屋になります。

<p>6</p>	<p>【小ホールについて】</p> <p>「小ホールで、ダンスや卓球(軽運)が出来ます。」との説明であったが、働く婦人の家や中央公民館では、日常的に卓球の練習をしている団体がいる。 例えば、小ホールで、卓球の練習とフラダンスの練習は一緒には出来ない。 特に、働く婦人の家の卓球については、日常的に満杯の状況のため、 「この部屋も使う事が出来ます」というのではなく、 「この部屋を使ってください」と言うような設計図にして欲しかった。</p>	<p>働く婦人の家の軽運動室の利用状況等も含め、諸室に対し、様々な要望があることは理解しています。今回の整備は、延床面積に制限がある中での整備となるため、全てのご意見を100%満足させる結果にはならないかもしれませんが、出来るだけ皆さんのご要望を設計に取り入れたいと考えています。 新しい施設は、今使っている方はもちろんですが、今施設を使っていない方にも使ってもらえるような施設にしたいと考えています。 そうすると、施設の利用者は多くなりますが、今まで1つの機能しかなく稼働率の低い部屋を、多機能にし多目的に利用できる部屋とすることで、稼働率を上げ、たくさんの団体にいろんな部屋を使ってもらいたいと考えています。 共用部についても、ただの廊下ではなく、打合せができたり、日常の居心地のいい場所であったり、少し楽器の練習ができたりと、今までは部屋でおこなってきたことが共用部でもできるような空間づくりをするなど、共用部をいかにうまく使っていかかも考えていかないといけないと思っています。 設計については、今後3回の市民ワークショップを予定しており、そのなかで、市民の皆さんと話しをしながら、部屋の使い方なども含め、どのように工夫していけばよいかを一緒に考えていきたいと思っています。</p>
<p>7</p>	<p>【今後の設計について】</p> <p>今から平面図を書き換えることは可能なのか。</p>	<p>今日説明したプランは、あくまでプロポーザルの技術提案書の内容で、基本設計は今スタートしたところです。 今後、今回のプランをベースに、市民ワークショップや皆さまからの要望や整備検討委員会などで多くのご意見をいただきながら、改良し基本設計を完成させるつもりです。</p>
<p>8</p>	<p>【諸室の確保について】</p> <p>交流空間が広いのはいいが、自分たちは施設を利用するのが目的であって、施設に遊びに来ているわけではない。 自分たちが望んでいるのは、会議室や卓球室が確保されるかどうかである。 多目的に利用できるとの説明があり、便利そうに聞こえるが、自分たちのように卓球等の目的があって使用する者にとっては、不便極まりない。 卓球台はどこに置くのか。 今まで使ってきた自分たちが、今までと同じように確実に使える部屋を作ってもらいたい。</p>	<p>既存の施設を利用いただいている方が、部屋数が減ることなどで、不安を感じていることや、働く婦人の家の軽運動室での卓球については、稼働率が100%に近いということは理解しています。 ただ、新しく出来る施設は、今使っている方はもちろんですが、これから使っていただく方にも配慮が必要だと思っています。 特定の団体に特化した部屋には出来ませんので、広く多くの方に使ってもらいたいと考えています。 現状として、3施設全ての部屋の稼働率が高いわけではなく、稼働率が低い部屋もありますので、複合化により部屋の機能を上げ、多目的に使用していただくことで、今までは使えていなかった部屋なども使用してもらって賄っていくことを想定しています。</p>
<p>9</p>	<p>【駐車場について】</p> <p>駐車場は、最大で95台との記載があるが、これでは確実に足りない。どういう考えなのか。</p>	<p>駐車場については、敷地内に80台程度を想定しています。 その他に、アピアさつきに50台程度を新施設建設後も継続で借りることを考えています。 臨時駐車場としては、国道を挟んで新J Aグリーンに約120台、J Aの職員駐車場約50台と、近隣で300台程度は見込んでいます。 大きなイベントの際には、足りない場合も想定されるので、近隣の民間の土地についても調査を進めているところです。</p>

10	【諸室の数について】	
	<p>現在の3施設の利用について、今後のワークショップでも話をしていくと思うが、その基礎資料として、部屋の数だけではなく、現在の26部屋の状況についての稼働率や部屋の広さ・利用方法・大型の道具類（ピアノや卓球台など簡単に持ち運べないもの）の収納状況を、資料として市が把握したうえで、新施設だどこに収納でき、どの団体がどの部屋を使うのかなど、的確に答えていただけるようにしてほしい。新施設を交流の場にした場合、新しい活動も出てくると思う。そのような中で、今使っている人たちが、部屋をどのように確保していくのかについても、考慮してもらいたい。四万十市には施設も少ないので、利用者は困っていて、近隣の市町村に行っている人もいる。例えば、黒潮町には無料で使える施設もたくさんあるので、そこを使いたいが、遠くて高齢者は利用がしにくい状況である。その辺も含め、新施設が高齢者も手軽に利用できる場にして欲しいと思っている。いろんな事を試算し、ワークショップなども行ってほしい。全てがあてずっぽうでまあまあやって「完成後にダメでした」では、せっかく盛り上がりつつある文化活動が、なくなってしまう。それでは本末転倒だと思うので、配慮して欲しい。</p>	<p>稼働率については、施設ごとに各部屋を午前・午後・夜間に分け、過去2ヶ年分を把握しています。平均的にみて、20～30%の部屋が多いのが現状で、研修室と会議室などの多いところで、40%前後と把握しています。把握している稼働率は、年間を平均したもので、実際には曜日や時間帯で差は出てくるが、今後もっと詳しく調べ、しっかり考慮したうえで、検討を進めてきます。大型の備品等については、今、どこに何があるかなどを把握している状況です。新しくできる施設にも、収納スペース必要であることは理解しているので、今後の設計でしっかり考えていきます。運用についても、管理運営計画の中にしっかり書き加えていこうと思っています。交流スペースについては、市民ワークショップでもたくさんの意見をいただいているので、しっかり活用しながら、部屋の稼働率も上げていくことを、皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。現時点では、各部屋の用途等についてしっかりと説明はできないが、今後設計を進めていく中で、お答えしていくようにします。</p>
11	【調理室について】	
	<p>現在、調理室は公民館と働く婦人の家とで2部屋あり、1部屋が使っているが、もう1部屋を使うことができるが、新施設では1部少人数で使う場合もあるので、仕切り等で2部屋になるような仕様にしてもらいたい。</p>	<p>全体のバランスをみながら検討をします。</p>
12	【憩いのプラザと五月公園の一体利用について】	
	<p>憩いのプラザと五月公園の一体利用について、間にある道路はどうするのか。子どもたちが飛び出したりして、危険ではないのか。</p>	<p>市道については、常時一体化利用するのではなく、イベントによっては、通行止め等、安全対策をしたうえで、一体利用することも可能ではないかと考えています。</p>
	<p>公園には公園法があると思うが、一体利用について、法との整合性はとれるのか。道路は、四万十市の市道で、公の土地であるが、これを通行止めにするとかしないとかは、もっと慎重に考えないといけないと思う。また、五月公園の前では2週間に1回、資源ごみの回収をしているが、処理は午前中に終わってもらいたい、雨などにより夕方になることもある。こういう状況の中で、市道をどのように使っていくつもりなのか。</p>	<p>五月公園は都市公園法に基づく公園で、地域の中に一定の面積を有して設置した公園です。今回の利用では、公園の形状について、大きく変更させる予定はありませんが、フェンス等については、複合施設と一体利用ができやすいものにと考えています。通行止めについては、常時ではなく、年に数回程度、イベントによっては通行止めもありうるという想定です。通行止めの際には、資源ごみの回収についても考慮し、収集に支障が無いような運用を考えていきます。</p>
13	【共有スペースについて】	
	<p>ふらっと立ち寄るとか、目的なく立ち寄るといのは、今の市民の生活の中では考えられないので、そのようなコンセプトはいらぬのではないのか。</p>	<p>人口減少も進む中で、誰でも用事がなくても立ち寄れるような場所にする事で、いろんな年代の方の交流がうまれたり、にぎわいや交流の場となる事が、大事だと思っています。</p>
14	【搬入スペースについて】	
	<p>大ホールの搬入は、市道が狭いがどのような搬入を考えているのか。</p>	<p>11トンのガルウィングを想定しており、搬入の動線については設計の中で詳細を確認中です。道が狭いことは認識しているので、危険がないように設計の中で十分に考えていこうと思っています。</p>
15	【観光客について】	
	<p>観光客が立ち寄るとの説明があったが、観光客がこの施設に何をしに来るのか。今は、スマホなどからも情報を得られるので、わざわざ施設に来る人がいるのか。</p>	<p>観光客が何かをしに来るという明確な想定はないが、立ち寄ることが目的となるような立ち寄ってみたいと思ってもらえるような、施設になればよいと思っています。例えば、中の様子が見えるようなつくりをすることで、市民が行なっている活動を見えたり、市外の方にもイベントなどに来てもらえるような施設になればと思っています。</p>

16	<p>【交流スペースについて】</p> <p>交流スペースの利用は良い案だと思うが、フジグランなどスーパーであれば子ども達が遊びに行くし、市役所のロビーでは、高齢者が話したりしているのを見かける。人が集まるには、集まる理由や集まるのに見合ったものがあると思うが、新施設では、どういう人が、どう利用をすることを想定しているのか。</p>	<p>栲原の図書館が「ふらっと行ってみたい場所だ」との評判を聞いて行って見たが、評判どおり、開館と同時に子ども達がお弁当を持ってきたり、年配の方が将棋をうったり、新聞を読んだり、一定の決まりの中で、おしゃべりを楽しんだり、それぞれの時間をゆったりと過ごしているのが印象的でした。用事は無くても、あそこに行けば誰かに会えたり、楽しいことがあると思ってもらえるような施設が大事ではないかと思っています。来ていただいて、施設で過ごしていただくことが目玉になるような施設になることを考えています。</p>
17	<p>【大ホールの座席数について】</p> <p>基本計画では850～1,000席と記載しているが、何の議論もなく、今回1,000席の案がでるのはおかしいのではないかと。7月に朗読劇をやったが、一生懸命集めて620～630人来てもらうのが、精一杯であった。過去5年くらいで、現在のホールがいっぱい1,000席いるほどのイベントがあったのか教えて欲しい。ただ、大きければいいというものではなく、1,000席になればそれなりに維持管理費も大きくなると思うが、市として、本当に1,000席いると思っているのか。演劇に関わっているものとして、このまま1,000席でいかれると困る。普段使いもしっかり考えて席数は決めてほしい。</p>	<p>素案の段階で、850席でパブリックコメントをおこないました。素案では、小学校や中学校の行事や成人式にも対応できる規模で、近隣の850席程度のホールも満杯になることは無いとの状況を勘案して850席程度としていたが、パブリックコメントや整備検討委員会でいろんな意見があり、基本計画では、850～1,000席程度と幅を持たせた計画としました。整備検討委員会の中でも複合化ということも踏まえて、他の諸室とのバランスや交流スペースもとりながら、他の諸室に影響が出ない範囲で、出来るだけ多くの席を確保するという方向性でまてています。1,000席というのは、プロポーザル提案の条件として、設定しただけで、現時点では1,000席で決まったわけではありません。今後、維持管理の問題や、人口の問題など多方面から、しっかり比較検討を行い、皆さんにお示ししたいと思っています。</p>
18	<p>【諸室の機能について】</p> <p>1つの部屋を仕切って多目的に使うとの提案があったが、ダンスの練習でいうと、音の問題などもあり、他の利用者に気を使ったりしなければならず、一緒に使うのは難しいと思う。現状では、子どもたちが気軽にダンスの練習をができる場所ではなく、子どもたちからもそういう相談をよく受けている。子どもたちがこのような場で発言するのは難しいと思うので、設計段階で意見を聞いてもらえる場をつくってほしい。</p>	<p>設計者としても、是非とも若い方の意見を聞きたいと思っていますので、ワークショップに参加していただけるように、お声がけしていただきたいです。ワークショップでいただいたご意見は、できるだけ設計に反映させたいと思っています。今施設を使っている方は、ワークショップにも興味をもっていただき、その中で意見はいただきやすいですが、今使っていない方は、ワークショップに参加される方も少ないので、意見が届いてこないのが現状です。多くの方に、意見をいただきたいと思っているので、皆さんの周りにそういう方がいらしゃれば、ワークショップにお誘いしていただき、その中で話し合い、皆さまと一緒にいい施設をつくっていききたいと思っています。音については、最近考え方も変わってきていて、昔は図書館は静かでないといけない場でしたが、最近はまだ本を借りて読む場所ではなく、市民の居場所でありたいと考える図書館が増えていきます。まちの中に若い子達の居場所が少ないということも原因だと思いますが、静かにする部屋など図書館の必要な機能はしっかり残して、共用部はできるだけ自由に使えるようになってきています。今回の施設でも、音をしっかりとさえぎる部屋もあれば、部屋の音やにおいの賑わいが共用部に漏れ出る部屋があってもよいと考えています。その漏れ出た音や賑わいが、いろいろな活動を誘い、新たな活動の始まりにつながればよいと思っています。</p>
19	<p>【楽屋について】</p> <p>一流のアーティストが来た場合、楽屋が少ないと思うがどう考えているか。</p>	<p>部屋が潤沢にあるわけではないですが、例えば、大人数の演者がいる公演では、リハーサル室を楽屋にしたり、諸室を1つの用途ではなく、多目的に使える部屋にすることで、稼働率を上げる工夫をして、限られたコスト・面積の中で、出来るだけ多くの市民に使っていただける提案をしたいと考えています。</p>

20	<p>【大ホールにおける障害者の利用について】</p> <p>知的障がい者・精神障がい者など、いろいろな種類の障がいがあるが、どのように配慮しているか教えてほしい。 例えば、知的障がい者の場合は、集団になると異常に騒がしくなるなどの特性もあるが、このような場合にも対応はできるのか。</p>	<p>例えば、声を出してしまうような障がいがある方で、ホールの一般席の利用が難しい方は、多目的室の利用を考えています。 一般的には多目的室はホワイエから階段を上がって利用するのが普通ですが、障がいのある方やベビーカーを持った子ども連れの方など、いろいろな方の利用を想定し、ホワイエから段差無く入られて、しっかり舞台も見れるような設計にしようと思っ ています。 また、多目的室は少し小さめに2部屋とする提案をしています。 これは、障がいのある方や子供連れの方にも配慮し、広い部屋を1部屋というよりは、小さくても2部屋があったほうが良いのではないかと考えています。</p>
21	<p>【現在の利用団体について】</p> <p>説明の中で、6,400㎡という数字が出てくるが、この数字を、使用団体が心配している部屋数の数の要望を拒否するための道具に使ってはけません。 この数字は設計するものが、超えてはいけないという設計条件であり、この数字の範囲内で、利用団体が不足するのではと心配している部屋数や、利用方法などにより必要となる倉庫などを満足するように配置して、なおかつ、設計者の目標を、工夫して両立することが求められているものです。 利用団体が必要な部屋数が足りなければ、未来へ繋ぐことは不可能です。 利用団体の意見を調査して、設計の基礎資料としてほしい。 任意サークルのような団体は何団体あるのか、市の主催事業のシルバー講座のような団体は何団体あるのか、その他の団体は何団体あるのか。合計で何団体が文化センター、中央公民館、働く婦人の家を利用して活動しているのかを教えてください。</p>	<p>3施設を利用している団体数については、全てを把握できていませんが、分かる範囲では 計：155 団体です。 【公民館】 ・登録団体：56、 ・主催事業（シルバー教室・初心者まんが講座、中国語講座、ジュニアアンサンブル講座）：12 ・それ以外の文化活動サークル：14 【文化センター】 ・文化活動サークル：5 【働く婦人の家】 ・登録団体：58 ・主催事業（講座）：10 分かる範囲では、計：155団体です。</p>
22	<p>【設計全体及び本日の説明会について】</p> <p>部屋数の話も出ていたが、今の施設の部屋の数を調べても、今後の市民ワークショップなどで意見を収集し、今後の設計の中で変わってくるので、今よりもこれからが大事だと今日の説明を聞いて感じた。 提案書の中には、部屋をいろいろなスタイルで使う工夫が記載されており、例えば小ホールの使い方を、オープンスタイル・セミオープンスタイル・クローズスタイルと、いろんな使い方をすることによって、臨機応変に部屋の数や広さを変えられると認識したが、このような認識でいいのか。 本日の説明会では、部屋数やデータが足りないという話ではなく、今後市民とコミュニケーションをとりディスカッションをおこない、限られた面積を、どのように有効活用するかを考えていきたいんだという設計者の思いも分かったし、今後どのような施設がほしいのか、その声を聞きたいという場として、本日の場が設けられたという認識で間違いはないか。</p>	<p>その通りです。本日説明したプランは、あくまで市が設計業者を選定するにあたり、提示した与条件(基本計画等)を基に計画したものです。設計者としては、プランではなくコンセプトや考え方を皆さんでもらったと認識しています。 皆さんにお会いするのも初めてなので、どういった方々が施設を使っていて、どういう意見をお持ちなのかを知らずに提案をしています。プランは皆さんと一緒につくっていくものだと思っており、今回のプランをベースに、本日いただいた意見やこれからワークショップでいただく意見を基に皆さんと話し合っ て、設計を進めていきたいと考えています。 いろんなご意見があり、ぶつかりあう時もあると思いますが、それらも含めて議論しながら、一緒に決めていくことが重要だと思っています。一方的に与えられた施設を使うのではなく、建った後に「この施設は自分たちで議論して決め、自分たちが工夫をして使っていくんだ」という想いを持ってもらいたいと思っています。例えば市民サポーターとして、この施設を運用していくことに加わってもらえる方などが増えていくことで、今までにない使い方をしてもらう方も増え、文化活動がより発展することにもつながっていく。長く愛される施設になればよいと考えています。 そういう考えからも、市民の皆さまのご意見を聞く場はとても大事だと思っています。皆さんにご意見をいただきながら、皆さんとつくっていくものだと思っているので、多くの方にワークショップへご参加いただきたいと思 います。</p>